

現地でしかできない良質の体験を！

－物見遊山から学びへの変革をめざして－

岐阜市立 梅林中学校

はじめに 梅林中学校の概要

- ・ 昭和22年に創立され、現在58年目を迎える。卒業生は19,859名。
- ・ 現在15学級、生徒数465名の中規模校
- ・ 教育目標「たくましく 心豊かに 生きる（生徒、教師、保護者、地域）」
学校・家庭・地域の3者一体となった教育推進
- ・ 生徒の一番燃えるものは部活動 女子バレー部東海大会出場の常連
- ・ 「知識を知恵に結ぶ総合的な学習の時間」を目指して、未来教育プロジェクト学習の教育手法を実践中

3年生：「夢プロジェクト『しごと・生き方』」

価値ある生き方をしてみえる人物を訪問インタビューし、自分の取材をレポートにまとめ、大切にしたい生き方を提言する活動

2年生：「中学生のための健康プロジェクト」

健康維持増進のための調査実践活動をまとめ、提案集を作成

1年生：「安全プロジェクト：安心して暮らせる安全な街づくり」

梅林中校区で安全に暮らすためのアイデア集作成

梅中修学旅行の実践概要 <50周年記念誌より>

1. 昭和24年度 京都・奈良方面 六三制創立期の修学旅行

戦後の混乱期、六・三制創立期の修学旅行。当時は一泊二日、京都・奈良コースでした。国鉄（現JR）一般車両にて移動したことを覚えています。奈良へ直行し京都にて宿泊、見学、帰路というあわただしい日程でした。

当時の旅館の宿泊は、各自が食事用の米を持参して行きました。旅行の思い出として最も楽しかったのは、夜の枕投げ。遅くまで部屋で騒ぎ、枕を投げ合って楽しい一時でした。（勿論、先生から大目玉！）奈良の大仏の大きさに驚き、金閣寺（焼失前）の金箔もほとんどなく黒いうるしがまだらに覆っている古めかしさが今でも脳裏に残っています。

2. 昭和32年度 関東（箱根・鎌倉・東京）方面 2班に分かれての修学旅行

生徒数がマンモス化し、校長引率の一班と教頭引率の二班に分かれて一日ずらしての修学旅行、所持品に米9号、新聞紙風呂敷（車内で座席のない場合利用する）が特徴。

旅行の目的には、次の3点が掲げられていた。

学校や郷土で直接学習できないことを、直接見聞して平素の学習を確かなものにする。

団体の一員であることを自覚して、規則正しい行動をし、社会道徳の実践的訓練をする。

祖先の文化遺産を学び、近代文化の粹にふれ、国土のすぐれた自然環境に接して情操を養う。

3. 昭和35年度 関東(東京・日光)方面 修学旅行専用列車

在学中、最大の思い出はやはり修学旅行。熱海―箱根―鎌倉―東京コースも、来年からは修学旅行専用列車のおかげで、乗車時間も短くなり、日光まで足を伸ばせるようになった。新東海道線ができれば、また行き先も広がるかも知れぬ。しかし行き先はどこであれ、修学旅行の意義は、むしろ、級友と旅する楽しさにあろう。

その楽しさをぶちこわすのが、観光地のガメツさである。「これは・・・」と珍しがってうっかり入ろうものなら、出口で「ハイ、50円いただき！」と来る。小遣い金500円也の我々中学生の旅行では、こんなことはかなわぬ。とにかく観光地にはご用心あれよ。2年生諸君！

4. 昭和63年度 関東(箱根・東京)方面 東京ディズニーランド

私たちの修学旅行は東京ディズニーランドと箱根でした。東京ディズニーランドでは班行動をとったのですが、実は迷子が出て必死に探したり、私たち女子の買ったお土産を男子に持たせたり、箱根の遊覧船の上ではしゃぎすぎて先生に怒られたり、友達と遅くまで話をしたり・・・。今となっては全ての思い出が宝物になっています。きっとこの先も永遠に変わらないだろう楽しみな行事が、修学旅行だろうと思います。

5. 平成2年度 関東(東京)方面 初めての班別行動

梅林中学校初めての都内班別行動だった。国会議事堂で解散し、あとは地図を片手に、見知らぬ人に道を訪ねながら歩いた。原宿では、男子が買い物があると女子が外で待っていて、班だけで行動できたし、行きたいところへ行けて良かった。決めてあった時間よりも早く新都庁へ向かった。山手線で原宿から新宿まで乗ったが、駅の中でもどちらへ行くか分からないもので、駅で働いている人に聞いた。それでも間違えたりして「あっちじゃない」「ちがうて。こっちやて！」とか良いながらやっと新都庁に着いた。ビルの大きさにびっくりした。4・5階から見た景色は、すーごくきれいで、椅子に座って色々な話を男子と笑いながらして、とても楽しかった。

6. 平成8年度 関東(東京)方面 室内スキー体験

僕たちは平成8年6月15日から17日まで東京方面に修学旅行に出かけました。僕は3日間で第1日目のザウスでのスキー研修が一番楽しみでした。室内のスキーは思ったより広く、外でのゲレンデと変わらないくらいでした。初心者にはインストラクターがつき、経験ある人も十分満足して滑ることができたと思います。(都内班別行動、東京ディズニーランド)

7. 平成14・15年度 関西(広島・神戸)方面へ変更 平和・震災学習

- 1 広島班別研修 4コース 江田島：旧海軍兵学校， 大久野島：毒ガス資料館，
広島A：原爆養護ホーム， 広島B：放射能研究所
- 2 平和公園：平和宣言セレモニー，神戸：人と未来防災センター
- 3 ユニバーサルジャパン

次は平成15年6月2日の校長便りである。

校長便り「たくましく 心豊かに！」 7 H.15.6.2 小島
修学旅行を通して思うこと

初めての梅中での修学旅行。3日間生徒と行動をすることで、感じたことを述べます。

1 「やる気になればできる！」

一番感動したのは、「大地讃頌」の歌声。原爆被爆者小松さんの熱い講話に対するお礼の気持ちと原爆被災地広島原爆の子の像の前で平和宣言の決意が十分伝わる合唱であった。

*小松 清興氏 67歳 小学校4年生のとき、爆心地から2.5キロの所で被爆。「ピカッと光ったと思ったらドカーンとすざまじい音。窓ガラスはこっばみじん。5～6メートルは吹き飛ばされていた。原爆の熱風のため半袖シャツから皮膚が出ていた部分は大火傷。慌てて祖父と防空壕へ避難。防空壕で目にした光景「年輩の女性が避難してきた。髪の毛は逆立っている。顔や腕の皮膚は見るのもつらいほどただれている。自分の尿で顔面や腕のただれた皮膚を癒している姿に驚愕。尿にはアンモニアが含まれているから、『皮膚を守りたい』『何が何でも生きたい』という強い気持ちだったと思います。」

「原爆雲で太陽が遮断され、大火傷を負っていても寒かった。3時間黒い雨が降り続いた。学校の校庭は11月まで死体焼き場となった。」

「中学1年生から体調がおかしくなる。放射能のため内臓機能が犯され、虚脱感に嘔まれる。その上、祖父母も亡くなり、独りぼっちで必死に生きなければならなかった。草団子で命をつなぎ、着物も1枚の学生服で過ごした。住む家もない。焼け野原での生活。食べるものがない程耐えられない苦しさはない。・・・昨年は3回入院。肝臓、腎臓障害、両腕・足も腫れ上がってしまった。」

「戦争は『自分さえ良ければ・・・』という気持ちが出発点である。『相手の立場になる』『暴力でなく、話し合いによってお互いが分かり合う努力を！』『是非相手の心の痛みが分かる人間になってほしい！』」

実際に聞く生々しい被爆体験。むごすぎる戦争への想い。小松氏の熱い語りにも心動かされる。気持ちが大地讃頌の迫力ある歌声「やる気になればできる！」となって表れていた。更に第1日の大久野島での毒ガス資料館では5分で見学を終えてしまっていた生徒が、翌日の原爆資料館では、じっくりと見学する姿に変わっていたことから伺える。

「ごまかしの生き方は、自分も仲間も駄目にする！」

ユニバーサルスタジオでの班別研修。靴下をルーズソックスにわざわざ直す女子。スカートを直す女子。シャツ出しする生徒。「はぐれてしまったから・・・」と平気で別行動をとる生徒。土産を買うために集合時間を守れない生徒など、心の弱さが露呈された。「先生にバレなければ何をしても良い」「叱られたら適当に謝っておけば・・・」「自分さえ良ければ・・・、その場だけ良ければ・・・」という心の醜さ・弱さである。阪井田先生は「約束を守ろうとした仲間の気持ちから分からないのか！」と激怒されていた。

でも冷静になって考えてみれば、USJは個人的に快樂を楽しむ場所である。その場に於いて班行動をしようとか「身だしなみを整えて行動せよ」と要求すること事態が無理ではないか？と思うようになった。このことについて皆さんはどうお考えだろうか？

『良質な体験は人を育てるが、低俗な体験は人をスポイルする！』

8. 平成16年度 長崎方面へ 修学旅行から学習旅行へ

当時の学年主任が次のような提案をしてきた。「今の学年の様子を見ているとユニバーサル スタジオ ジャパン(USJ)を切るとは困難です。保護者も生徒もUSJで遊べるのを楽しみにしているから・・・」

運営委員会では「東京方面でディズニーランドを切るために、広島平和学習に変更した経緯がある。それを学年が勝手に遊びを入れてしまう体質が問題である。」「長崎方面での費用が広島方面とそれほど差がない(5,000円程増額)ことを考えると、最終決断で変更も必要かもしれない。」「お金にかかわる問題であるからPTAの了解を得る必要がある。」「長崎方面に変更した場合、遊びの要素であるハウステンボスを計画に入れてしまった場合、もう梅中が行ける所はなくなってしまう。」など意見が沸騰した。

<日程>

5 / 28 名古屋空港――福岡空港――諫早干拓環境学習――ホテル：戦争体験講話
(ANA9:00, JAL9:15)

5 / 29 ホテル――長崎平和学習(平和記念像, 平和の泉, 原爆落下中心地, 原爆資料館)――長崎市班別研修――ホテル連泊

5 / 30 ホテル――吉野ヶ里歴史公園歴史学習――福岡空港――名古屋空港
(ANA15:10, JAL15:45 発)

平成17年度の実践

1. 指導のねらい

戦争の悲惨で非人間的な実態を被爆地で確かめ、平和な地球にするために私たちが何をすればよいかを考えることができる。

岐阜では見られない自然の雄大さや驚異に触れ、私たちの住む地球の豊かさや素晴らしさに気づくことができる。

仲間と寝食を共に行動することで、互いに関わり合いながら、よりよい仲間づくりをめざして行動することができる。

2. 日程

6 / 1 中部国際空港――福岡空港――長崎市(ピースプロジェクト1:見学)――
(ANA11:00, JAL11:30 発)

ホテル(ピースプロジェクト2:講話)リーダー会

2 (ピースプロジェクト3:語り部との碑めぐり)――(ピースプロジェクト4:平和セレモニー)――長崎市内班別研修――雲仙泊

3 雲仙岳災害記念館見学――イルカウォッチング――福岡空港――中部国際空港
(ANA17:00, JAL17:15 発)

3. ねらいを具現するための方策

4段階のピースプロジェクトの設定

- ア 見学：平和記念像，平和の泉，爆心地，原爆資料館
- イ 被爆者体験講話：尾畑氏
- ウ チーム毎に語り部と共に碑めぐり，原爆ホーム訪問
- エ 平和セレモニー：折り鶴献納報告，学習交流，平和宣言，合唱

良質な体験活動の設定：雲仙災害記念館訪問と口之津港でのイルカウォッチング

- ア 日常活動と結ぶ指導：「掃除・授業・合唱・服装」
 - ・リーダー会のリーダーシップの発揮
- イ 仲間と触れ合いができる場の設定：畳の間での宿泊，生活班を核にした集団行動

4. 生徒の姿から

<ピースプロジェクト1：平和公園・原爆資料館見学>

*平和記念像は，右手が原爆の恐ろしさを表し，左手は平和を表していることを初めて知りました。今まで知らなかったのでびっくりしました。

*原爆資料館では，ガラスのささった手や爆風で変形してしまったやかんの破片まで被爆したのを見ることができた。中でも，逃げ遅れて燃えてしまった人の写真を見たときには「うわっ ひどい!!!」と思いました。



<ピースプロジェクト2：原爆被爆者講話>



*話を聴く前は「被爆した人なら傷とかもあるのかな」とちょっと心配だったけど，会ってみたら普通の優しそうなおじいさんだった。その人が被爆者だなんて信じられないくらい元気そうだったし，差別を受けるようには見えなかった。でも話を聴いていて，大手術を何回も受け，すごく辛いことにも負けないで，もう2度と戦争は絶対に起こしてならないと訴えてみえる生き方に感動した。

<ピースプロジェクト3：語り部との碑めぐり> 依頼した人数 8名



*一番平和について考えることができたなと思ったのは、碑巡りのときだった。語り部の方のお話を聞いて、そのころの戦争に対する気持ちなどをしっかり知ることができた。原爆投下の原因を聞くと、日本は被害者でもあり加害者でもあることを改めて感じた。私ができることを考えてみて、最初に思いついたことは、戦争に賛成する気持ちをなくすことです。もう一つは自分の周り

にいる人を自分と同じように思うことが必要だと思いました。

*原爆ホーム恵の丘を訪問したときに、被爆者の方が泣きそうな顔と声をしながら「2度と戦争は起こしてはダメ！戦争は勝っても負けても良くない。これからの日本を平和にしていってほしい！」と言われたことについて、「戦争の無意味さとむごさ」を改めて知りました。

*浜崎さんは「お兄さんを探しているときに、道に人の死体のごろごろと転がっていても怖いとも何とも思わなかった。」と聞いて、普通だったら人の死体があつたりしたら怖いとか絶対に何かは思う筈なのに、「何も思わなかった」だなんて、原爆は人を普通ではいさせなくすると思った。



<ピースプロジェクト4：平和セレモニー>



平和宣言文の朗読



平和合唱「名づけられた葉」

2005年 梅林中学校平和宣言

私たちは、中2の3学期から広島や長崎の原爆の悲惨な被害について学んできました。このたった1発の原爆によって、長崎では7万人以上の方が亡くなったことを知りました。その時は助かって、火傷や原爆症、さらには被爆した人への差別や偏見で一生苦しみ、不安の中で生活しなければならない方も沢山いらっしゃいます。何の罪もない人々を無差別に殺し苦しめているのが原爆です。しかし、原爆によって家族や健康を奪われた方の中には、その苦しみをしっかり受け止めた上で、平和を願って行動を起こしている方が沢山いらっしゃることを知りました。長崎では、「長崎市民平和憲章」に基づき、市全体で平和への発信行動がされていることも知りました。

私たちの修学旅行のスローガンは、「平和を願う心、仲間を思う心を 満開に！」です。「平和を願う心」には、どうしたら平和が得られるかを考え、長崎での学習を通して、自分ができることを目で見、耳で聴いて探せるようにという願いがこもっています。今回の修学旅行では、実際に長崎の地に立ち、4つのピースプロジェクト活動を通して、一人一人が平和のために自分ができることを探してきました。それをまとめて力強く発信していこうと思います。

一つ目は、今回私たちが知ったことを身近な人や次の世代へと伝えていくことです。実際に戦争や原爆を体験された方のお話はいつまでも聞けるわけではありません。しかし、何年経っても、世界中から被爆の事実が忘れ去られてしまうことがあってはいけません。だから、お話を聞く機会を持たれた私たちが、そこで感じたことや知ったことを、具体的に広く伝えていかなければならないと思います。

二つ目は、平和発信のための行動です。もちろん、私たちがいきなり世界に向けて平和を訴えることはできません。しかし、自分や周りの人など身近なところから、平和に向かう生き方を始めていくことはできると思います。まずは、「命を大切にする生き方」です。戦争や原爆では、生きたくても生きられない、死にたくなくても死ななければならなかった人々が沢山いました。今、自分の命があるということや自由に好きなことができる素晴らしさを実感し、誰の命も同じように大切にしたいと思います。「命を大切に」というのは、自らの命を絶つことはしない、相手を精神的に追い込んで死を考えさせるようなことはしない、もちろん、相手や自分を身の危険にさらすようなことはしないということです。もう一つは、「差別や偏見を許さない生き方」です。ケロイドや原爆症のために身体の痛み以上に心の痛みを味わった被爆者の方の思いを繰り返すことは、絶対に許されません。誰に対しても、まず、相手の立場になって接することで、周りにある差別や偏見を私たち自身が断ち切る強さをもちたいと思います。

私たち梅林中学校3年生138名は、平和に向けて、戦争や原爆の悲惨さを身近な人や次の世代へと伝えること、すべての人の命を大切に、絶対に差別や偏見を許さない生き方をしていくことを誓います。

2005年6月2日 岐阜市立梅林中学校3年生一同

良質な体験の設定：雲仙災害記念館見学と口之津港でのイルカウォッチング



* ラッキー？にも雲仙宿泊中に震度4の地震が体験できた。この体験により、翌日の生徒の雲仙記念館見学への真剣さが増幅されたように感じられた。



* 海のない岐阜県にとって 壮大な青い海での乗船体験やイルカウォッチング体験は、生徒にとって印象深いものになった。

より良い仲間づくり

A子：まずこの学級の弱いところから。レク係がレクをやっているとき、眠たいからといって参加しなかったり、バスガイドさんが説明をしているのに、トランプをしていたりと、自分勝手なところがあると思う。もっと相手のことを考えて行動しなくてはいけない。

良いところは、学級又は学年で行動するときに、無駄な動き無くできる場所だと思う。帰りの飛行機で乗り合わせた高校生？と比べてそう思った。これは他の学校へも誇れるものだと思う。

B男：ぼくはこの長崎修学旅行で、仲間と協力することができるようになったと思います。まず協力できたことは、行き移動中のことで荷物の確認、健康チェックなど班の仲間を思うことができたと思います。次に班別行動のとき、目的地までの道やルートを全員で確認しバラバラにならず、全て班行動と言える班行動で終わらすことができました。そして、最後の反省もみんな疲れて眠かったけど、ちゃんとした反省がきちんとできたので良かったと思います。



長崎市内班別研修 オランダ坂



宿泊は畳の部屋

素敵な進路学習ができたバスガイドさん



「静かに！私の話を聞いて！」とは絶対に言わないで、生徒を惹きつける話術。3日間同じバスガイドで、2日目には全員の名前を覚えて、「さん！昨晩はよく眠られましたか？」と名前で問いかける熱心さ。など、正にプロとしての自覚と責任溢れる対応ぶりであった。（通例は、先頭と最後のバスにはベテランを配して、中間は新人というケースが今までの経験であっ

たが、どのバスガイドも、プロに徹しきった態度であった。聞くところによると、1年間みっちり研修を積んだ後で、ガイド業務に就くという研修体制も素晴らしいものであった。）予期せぬ進路生き方学習ができた事例であった。

5 平成17年度 修学旅行の振り返り<3年学年会>

① 当日までの段取り

ア．仕事や分担など

- ・ 宿舎や協力団体との具体的な交渉やお願いなどを直接行うためにも、担当学年の下見は2名以上が必要。（今回は前年度の夏休みに森島と岸が実施、ピースウィングの訪問は参考になった）見学する場合、各小学校への協力要請を行えるとよい。中学校の交流を行うのであれば、この時にプランを伝えることが必要（市教育委員会経由で）。
- ・ 保護者への事前の説明は授業参観時の学年懇談を用いて行い、下見の際の写真を使って紹介できたことは理解を得るのに効果があった。福岡の地震のため、心配される親が多かった。
- ・ 折鶴プロジェクトは、不登校の生徒や保護者、地域の方に平和学習の意図を伝えるために効果的に生かすことができた。
- ・ ピースプロジェクト1～4（1日半）は平和学習としては効果的であったが、計画の段階から後半の班別研修など自由になる時間が欲しかった。
- ・ 班別研修の準備における担当教師の負担が大きい。

(班長会、生活担当、養護ホームと重なり、丹羽先生には非常に負担をかけた)

イ . 生徒指導について

- ・ 服装の徹底を指導する際に家庭からの協力が得られないことがあった。
- ・ 不登校や第 2 学習室の生徒へ事前の指導が見通しをもたせるために有効だった。不参加の決定は段階を追って進めた。その結果、前日のキャンセル 1 名、当日キャンセル 2 名。 参考までに当日のキャンセル料金は本人負担分 1 名 2 6 4 2 5 円

2 当日の反省

ア . 日程

- ・ 時間の流れに余裕がなかった。計画が詰め過ぎであった印象をもつ。
- ・ 起床から出発までが慌しかった。
- ・ 解散の仕方、バスの降車位置が指定通りにいかなかった。

イ . 今後の改善点と検討事項

時期について

水、木、金が行動しやすいが、活動場所が込み合うため早めの計画と予約が必要。
他学年とは日程を重ねないこと。特殊学級の引率が課題となる。

ねらいについて

平和

- ・ 平和学習のまとめとして長崎は有効である。
- ・ 事前学習に使った教材を資料化して次年度に残していきたい。
- ・ 碑めぐりはとてもよい。事前学習を確かめられる。ガイドに誉められたように知識を得ておくことでより深い話題で案内をしていただくことができた。
- ・ 原爆ホームも受け入れる体制がしっかりしていて良い活動ができた。
- ・ 城山小では土日も受け入れていただけるのでどの日程でも活用したい。

仲間

- ・ 班別研修のウエイトを大きくしたい。
- ・ 学級独自の活動を仕組む余裕はないため、バスの中での過ごし方を計画的に考える。

自然

- ・ 地震を体験した事と火砕流の被害が出た当日だったという事で現実味をもって見学する事ができたが、普賢岳や雲仙にこだわる必要はない。
- ・ イルカウォッチングだけでも体験させたい。好評であった。問題は港が遠い。

日程について

- ・ 飛行機が福岡空港に発着することから時間が制限される。長崎に入るためには新幹線という選択肢もある。
- ・ 班別研修には余裕をもって臨みたい。今回は実質 3 時間。行動する範囲に制限がある。1 ~ 2 日に平和学習、3 日目は班別研修ではどうか。
- ・ 日昇館は検討の余地有り。虫 (ゴキブリ) の発生、講演会時の雑音 (隣の宴会など)
- ・ 進路学習と関わらせてバスガイドと添乗員の話を取材した。教育の行き届いた有能なガイドが多いため、仕事や働くことを学ぶよい教材となる。

6 本年度の実践から来年度へ

< 成果 >

1 修学旅行を成功させる「日常活動と修学旅行を結ぶ」事前・事後指導

3年生の合い言葉『日常の力（「授業」「掃除」「合唱」「服装」）を長崎でも！』

1) 学年リーダー会を核とした取り組み<学年リーダー会からの 千羽鶴作成の提案>

このあいだの学年集会で皆さんの承認をもらい、千羽鶴を作ることになりました。そこで、もう一度作る理由をしっかりと理解し、思いを込めて折ってほしいと思います。

千羽鶴を作る理由

平和の願いを込めるために

私たちは今まで戦争、原爆について学んできました。学んだことで二度と戦争が起こらないように、平和な世界を私たちの手でつくっていかねばいけないと思いました。そこで、その学習のまとめとして長崎へ行き、直接私たちの目で確かめ、平和の大切さを確認したいと思います。そして、平和セレモニーで私たちの学んだことを平和宣言として伝え、平和への願いを示そうと計画しました。その時に千羽鶴を使います。心を込めて折りましょう。

平和への願いを周りの人に伝えるため

私たちは色々学習してきたので、平和の大切さについて知っていますが、周りの人たちはあまり意識していないと思います。平和の大切さや戦争・原爆の怖さを伝え、梅林中の平和宣言に一人でも多くの人に参加してもらうように、千羽鶴を折ってもらうよう依頼しましょう。千羽作るには一人当たり8羽必要です。家族や周りの人にお願ひして千羽鶴の活動を成功させましょう。

佐々木禎子さんの話から

依頼するときには、是非道徳で学習した禎子さんの話をしながらお願いしましょう。

平成17年4月27日

梅林中に関わる皆さんへ

梅林中3年生リーダー会

依 頼 状

私たちは6月1・2・3日に長崎に修学旅行へ行きます。その時に千羽鶴を作り、平和セレモニーに活用したいと思っています。

――なぜ千羽鶴を折るのか――

この千羽鶴には平和を願う気持ちが込められています。はじめは佐々木禎子さんからです。佐々木さんは2歳のときに被爆し、11歳で白血病になりました。そして、元気になるたいという気持ちで一人で千羽鶴を折り始めますが、12歳で鶴を折りきることなく死んでしまいます。そんな佐々木さんの思いを知った同級生が千羽鶴の残りを折り、全国へ呼びかけます。それからできた禎子さんと千羽鶴の「原爆の子の像」は、平

和のシンボルでもあります。だからこれから未来を築きあげていく私たちは、自分たちの手で一羽一羽鶴を折り、千羽鶴という形で平和を願う誓いとして千羽を集ることに決めました。

――内容――

色紙の裏面には平和へのメッセージを書いてください。

(例： 願い「～なりますように。」 宣言「～なるように、～したいと思います。」)

色紙で鶴を折ってください。(折り方は裏に載っています)

色紙に書き込んだメッセージと同じ文章を下に記入し、鶴と一緒に依頼人に渡してください。

――まとめ――

皆さんの願いを込めた鶴を大切に長崎に届け平和への宣言をしてこようと思います。どうぞご協力ください。

2) 「平和学習」事前指導の概要資料

< 2年 3学期 >

1 「平和学習オリエンテーション」(原爆の悲惨な被害の実態)

ビデオ「ヒロシマ・ナガサキ」

2-1 「たった一つの原爆から」(戦争のもつ非人間性 被害者の立場)

元広島原爆資料館長高橋昭博氏の体験手記からの抜粋

2-2 「日本にもたらされた不幸と日本がもたらせた不幸」(戦争のもつ非人間性 加害者の立場)

グラフ「原爆投下に対する意識」資料「日本のもたらした不幸」

3 「ヒロシマの証言者」(悲劇をストップさせる生き方)

ビデオ「にんげんをかえせ」漫画資料「ヒロシマの証言者」

4 「原爆の子の像の願い」(被爆後の平和発信の動き)

作文{岐阜市中学生の作文}資料「原爆の子の像設立の呼びかけ文」

< 3年 >

5 「己の如く人を愛した人ー永井隆ー」(絶望的な悲劇の中で人々を支えた生き方)

資料「永井博士の生い立ちと功績」

6 「被爆者の訴え(2人の子どもと1人の朝鮮人の声から)」(原爆被害の悲惨さ・恐ろしさ)

手記「荻野美智子さん(10歳), 山口幸子さん(9歳), 李奇相イギサンさん(28歳)」

7 「ナガサキの外国人被爆者」(二重の犠牲を強いられた外国人被害)

資料「犠牲者は外国人の中にも」「二つの外国人犠牲者の碑の説明」

8 「何を学びにナガサキに行くのか？」

資料「今までの平和学習の振り返り」「ナガサキの平和学習のねらいや学習活動」「原爆についてのQ & A」

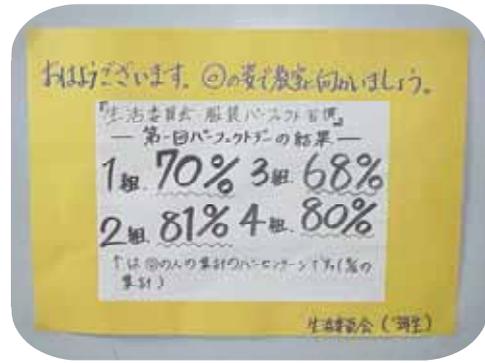
9 「何を学びにナガサキに行くのか？」

資料「2004年長崎平和宣言」「長崎市民平和憲章」「ナガサキ誓いの灯・灯台」

3) 合唱等の取り組み



昼休みに中庭で合唱発表



3年生活委員会：服装の取り組み

4) 修学旅行事後指導

修学旅行の財産確認

- ア)「平和を願う心」：どうしたら「平和」が得られるのかを考え、ナガサキでの学習を通して、自分ができることを目で見、耳で聴いて探ることができたか？
- イ)「仲間を思う心」：仲間と協力し合ったり心から話し合ったりして、仲間の良さや弱さも知って認め合うことで、絆をより深めることができたか？

班別平和学習の成果を模造紙半分にまとめた作品の掲示



5) 修学旅行後の活動

全校の先生方へ

3年生リーダー会では、6/17の放送でお伝えしたように、全校に向けて「公開活動」を行います。私たち3年生の「今の精一杯の姿」を公開したいと考えています。ご参観をお願いします。

満開の3年生

目指される姿の活動公開 Part 1

1 公開する相手

・保護者の方、・先生方、・1・2年の皆さん

2 公開日

6/18(土)、6/21(火)、6/22(水)この3日間です。

3 ねらい

目指される3年生として「いつでも」「どこでも」がんばれる「活動の日常化」を進めていきたい。

4 内容(各リーダー会から提案する次の4つのことをします)

掃除：学級委員会

「5箇条(時間スタート、無言、服装、役割、時間一杯、)をパーフェクトに！」

授業：教科係長会

「授業のスタートをパーフェクトに！」

合唱：議員

「『名づけられた葉』をパーフェクトに！」

日直の活動：学級事務

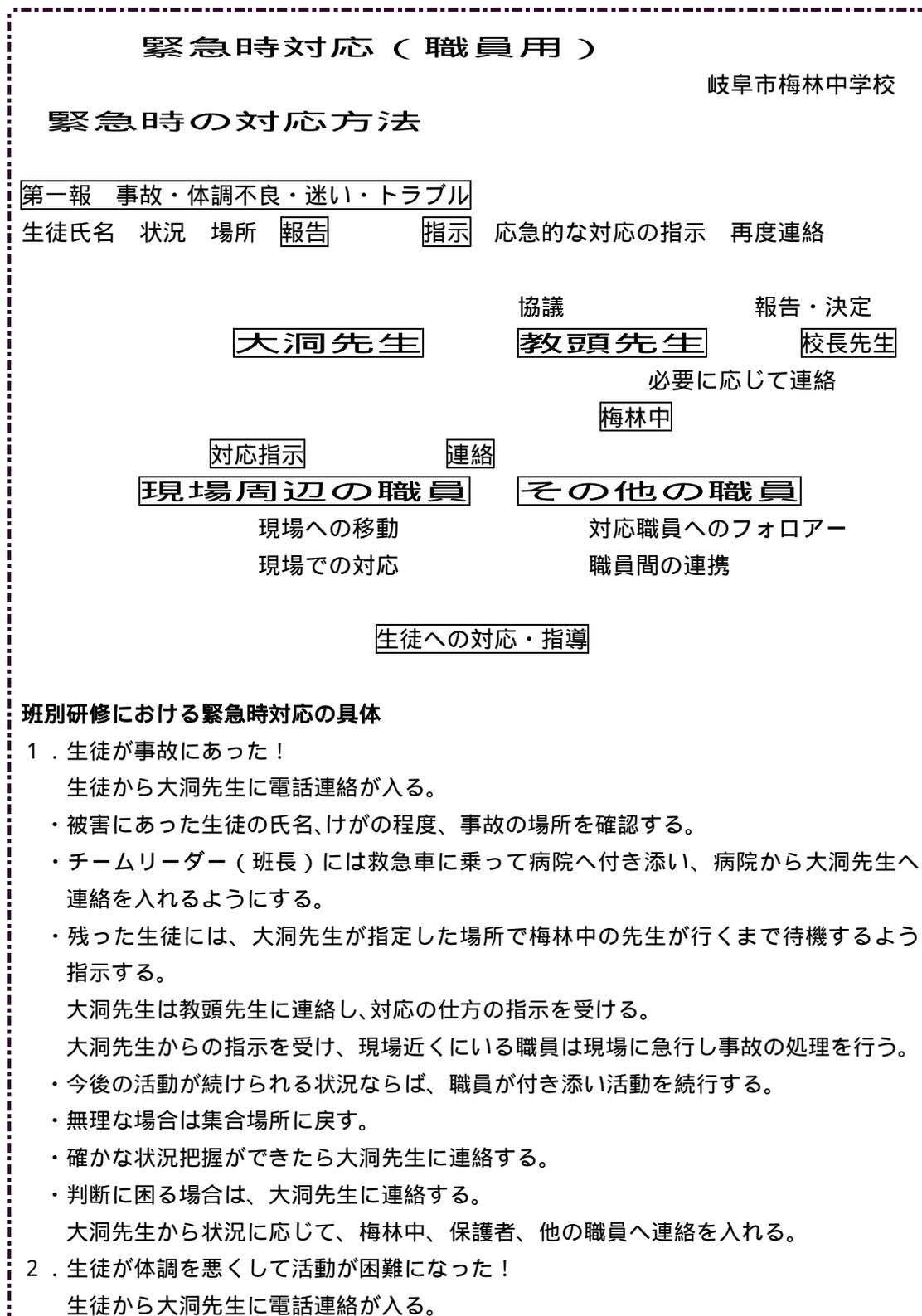
「放課後の教室整備をパーフェクトに！」



7/15 2・3年生合同合唱会



2 危機管理対応マニュアルの作成



- ・生徒の氏名、状況、場所を確認する。
 - ・大洞先生が指示した場所で梅林中の先生が行くまで待機するよう指示する。
大洞先生は教頭先生に連絡し、対応の仕方の指示を受ける。
大洞先生からの指示を受け、現場近くにいる職員は現場に急行し事故の処理を行う。
 - ・体調の状況に応じて病院へ連れて行く。
 - ・病院に連れて行かない場合は集合場所に連れて戻る。
 - ・確かな状況把握ができたなら大洞先生に連絡する。
 - ・判断に困る場合は、大洞先生に連絡する。
大洞先生から状況に応じて、梅林中、保護者、他の職員へ連絡を入れる。
- 3．生徒がはぐれた！
生徒から大洞先生に電話連絡が入る。
- ・生徒の氏名、場所を確認する。
 - ・はぐれた生徒、その他のメンバーどちらにも活動の起点に戻ることを指示する。
 - ・再び出会えた場合も、出会えなかった場合も、もう一度大洞先生へ連絡を入れるように指示する。
- 4．その他のアクシデントが起きた！（略）
- * その他： 連絡ルートと緊急連絡先の名簿作成

幸いなことに緊急対応マニュアルは必要なかったが、万一の場合に備えての危機対応を準備しておくことは肝要である。

< 課題 >

1 必要経費の問題

* 「学年所属の教員を全員引率者にしてほしい」という学年主任の願いと県から支給される出張旅費激減の狭間での悩み。

138名（4 + 1学級）の生徒に引率者 11名

一人当たりの経費 61,916円 × 11名 = 681,076円

県から支給された引率旅費 423,000円（約7人分）

残り約4人分は一般旅費で対応せざるを得なかった。

おわりに

「良質な体験が生徒を育てる」との校長の教育理念を具現するために、学年体制で、できる限り情報収集を行うと共に、旅行取扱業者の決定に当たっては、業者からのアイデアも募ってる意味からも、決定は毎年入札制をとってきた。

「ただワイワイ騒いで楽しかった」というのではなく、生徒にとって「自分の生き方見つめることができ、有意義であった」といえる修学旅行を更に模索し続けていきたい。